

夢洲調査報告 20190711（野鳥 2 回目）

公益社団法人 大阪自然環境保全協会 生物多様性委員会

10 時 20 分～12 時 30 分 天気：曇り時々雨

ルート：1 区と 3 区の間の尾根道、および 2 区干潟の周辺



前回の植物調査のとき、驚くほどカルガモが増えていて、カイツブリの営巣も見られたため、早急に野鳥をチェックしておく必要を感じ、野鳥調査を実施。雨が降ったりやんだりであったため、約 2 時間、ざっと回るだけで、切り上げたが、2 日のちがいで、植物の状態は変化していて、驚くほど早いスピードで変化する自然を目の当たりにする思いがした。

以下の写真は、左が 7 月 9 日のヒトモトススキ、右が 11 日の同じ個体のヒトモトススキである。周りの草の伸び方で印象がちがうのかもしれないが、希少な植物をみつけても、あっという間に埋もれるという印象。



さて、3 区淡水池で 9 日にみられたカルガモファミリーは、子どもたちの手がはなれたのか、列をなして泳いでいるところは見られなかった。小さい個体があちこちにいるので、もう自由行動が可能になってきているのかもしれない。カイツブリの浮巣では、オスメスが巣に出たり入ったりしているが、ヒナがいるようには見えず、これも巣立った可能性が高い。また、キンクロハジロ（オス）を確認。留鳥化していると思われる。



2区水辺にはチドリ類（遠方にて種の確認はできず）が数羽、あちこち歩き回りついばんでいる姿が見られた。遠方にて種の確定はできなかったが、チュウシャクシギかと思われる個体も見かけられた。羽を痛めたようには見えないが、こちらも渡らず残っているようだ。

6月の調査で、コチドリの営巣らしきものが見られた1区のガレ場＝小石広場だったところは、土と砂利がさらに敷き詰められキャタピラの跡だらけで、コチドリを見ることはそこではかなわなかった。さらに以前に土盛がされた場所では、裸地だったところが草原になっていて、ノラニンジンの花盛り。自然の回復力に目をみはる。

今回もチョウゲンボウ（メス）を確認。チョウゲンボウは毎回、時によっては雌雄とも確認されるので、夢洲周辺部で留鳥化、繁殖しているのではないだろうか。

ヒバリとセッカは相変わらず盛んにさえずっている。大阪市内で、草原性の鳥である彼らのさえずりがこれほど聞こえ、ホバリングする姿がこれほどはっきり視認できる場所は埋立地くらいだと思われる。他にもヨシ原のあたりでさえずりを耳にしたが種の判定はできず。夢洲ではガンカモ、シギ・チドリの調査は行われているが、小鳥系の調査は行われていないようだ。しっかりとした調査の必要性を感じる。

雨が降ってきたので、シギ・チドリなどの渡りと留鳥化について調べに、南港野鳥園に行った。ちょうど高田博先生が野鳥園のビジターセンターにいらして、レクチャーを受けることができた。

（調査＆写真／磯上慶子 加賀まゆみ）

